

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	菅井千鶴 (すがい ちづ)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	人間科学研究科 修士課程 2 年
発表年月 または事業開催年月	2026 年 6 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	音学シンポジウム 2026 (第 146 回音楽情報科学・第 160 回音声言語情報処理合同研究発表会)
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	菅井千鶴, 菊池浩史, 菊池英明
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	三次元態度印象に基づく個人内基準フィードバックによる韻律自己調整訓練の基礎検討
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>【Abstract】 雑談場面における対人不安を支援する科学的な発話訓練枠組みは限定的であり、従来の模倣型韻律訓練は学習者個別の音声特性を反映できていない。本研究は、知覚される発話態度の印象 (態度印象) を、学習者自身の“普段の声”を基準 (個人内基準) として自己調整する韻律訓練の枠組みを提案する。</p> <p>【Methods】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 態度印象を、Russell の円環モデルの「快-不快」「覚醒度」に「場面適切性」を加えた三次元空間上で捉え、Fo・強度・話速の 3 音響特徴量との定量的対応関係をモデル化する設計を示した。あわせて、3 特徴量を独立に操作した加工刺激音声 45 発話と、16 種の発声時背景×3 種の関係性条件からなる計 2,160 試行 (うち 90 試行を使用) の態度印象評定実験 (Visual Analog Scale: -50 ~ +50) の枠組みを構築した。 ➤ 訓練システムは、学習者自身の通常発話を基準とした z スコアによる個人内基準フィードバックを採用し、自己発話音声モニタリング (段階的な韻律調整感覚の習得) から、態度印象推定モデルを駆動エンジンとする文脈依存的な韻律自己調整訓練へ移行する二段階構成として設計した。本発表時点では前段の自己発話音声モニタリングシステムを実装した。 <p>【Discussion】 本発表では、個人内基準フィードバックに基づく三次元態度印象の韻律自己調整訓練枠組みを提案し、その二段階システムの設計・実装と、実用化に向けた課題として、特徴量の文脈・環境依存性と、態度印象推定モデルから訓練システムへの接続妥当性という二層的課題を整理し、現時点の対処策を報告した。あわせて、個人内基準フィードバックの妥当性を中心的な論点として提起した。</p>	

※無断転載禁止